

# 世界かんがい遺産に 三島の源兵衛川など

農林水産省は八日、国際かんがい排水委員会（ICID）が歴史的価値のある農業用水利施設を登録する「世界かんがい施設遺産」に、日本国内から源兵衛川（三島市）など十四施設を選んだと発表した。優れた施設の保存を目指して二〇一四年に始まり、今年で三回目の選定。日本からの登録は計二十七施設となった。今年選ばれたのは源兵衛川のほか、内川（宮城県大崎市）、安積疏水（福島県郡山市、猪苗代町）、長野堰用水（群馬県高崎市）、村山六ヶ村堰疏水（山梨県北杜市）、滝之湯堰・大河原堰（長野県茅野市）、拾ヶ堰（長野県安曇野市、松本市）、照井堰用水（岩手県一関市、平泉町）、足羽川用水（福井市）、明治用水（愛知県安城市、岡崎市、豊田市、知立市、刈谷市、高浜市、碧南市、西尾市）、南家城川口井水



源兵衛川の保全活動について説明する渡辺豊博さん＝三島市内で

（津市）、常盤湖（山口県宇部市）、満濃池（香川県まんのう町）、幸野溝・百太郎溝水路群（熊本県湯前町、多

良木町、あさぎり町、錦町）。世界かんがい施設遺産は、かんがい農業の発展に貢献し、技術的にも優れた水路やせき、ため池などを保存するのが目的で、建設から百年以上の施設が対象。日本からは応募があった十施設のうちICID日本国内委員会が七施設を選んで本部に申請しており、昨年からの継続審査と合わせて十四施設が選考にかけられていた。

## 「世界の宝、誇り」地元沸く

国際かんがい排水委員会の「世界かんがい施設遺産」への登録が決まった三島市の源兵衛川。登録は県内では「深良用水」（裾野市など）に続く二件目で、保全に取り組む地元関係者は「三島の宝が世界の宝にランクアップした証し。価値が認められ誇りに思う」と喜ぶ。

源兵衛川は室町時代後期に築造され、楽寿園の小浜池を水源とする全長一・五キロのかんがい用水路で、「水の都三島」の象徴的な存在だ。高度経済成長期に企業が地下水をくみ上げたのが原因でわき水が激減し汚染

象。日本からは応募があった十施設のうちICID日本国内委員会が七施設を選んで本部に申請しており、昨年からの継続審査と合わせて十四施設が選考にかけられていた。

された。だが、一九九〇年代に親水公園として整備され、市民が一丸となって懸命に維持管理をしたことのでかつての美しい環境が取り戻された。

世界かんがい施設遺産の登録について、昨年は保留だったが、二度目の挑戦で選ばれた。地元のNPO法人「グラウンドワーク三島」専務理事の渡辺豊博さん（六〇）は「地域の発展を支えただけでなく、歴史や文化的な側面も評価された」と感慨深げに語り、「登録を弾みに、グローバルな活動を展開したい」と意気込んだ。（佐久間博康）